

令和8年度 学校再編に関する話し合い（豊岡地区）

これまでの経緯と最新の児童数推計をご説明します



▲：茂原市マスコットキャラクター「モバリん」

日時 令和8年6月29日（月）午後7時から
場所 豊岡福祉センター 娯楽室

茂原市教育委員会 教育総務課

本日の内容

- ・これまでの経緯と最新の児童数推計
- ・現代の学校教育に求められること

○学校再編の計画に示されている内容

第一次実施計画の内容(要約) <平成30年3月策定>

【現状】

- 本納地区の3小学校（本納小・新治小・豊岡小）は、適正規模を満たしておらず、近い将来全学年が単学級となることが見込まれている。
- 特に新治小学校は市内で唯一複式学級が存在する学校である。
- 本納中学校も適正規模を満たしておらず、将来的にも生徒数の減少が見込まれている。

【方針】

- 3つの小学校を統合する。
- 本納中学校も小規模化が見込まれるが、他の中学校へ統合した場合、市北部地域から中学校がなくなってしまう、通学範囲等を考慮すると生徒の負担が大きく、望ましい教育環境にはならないため、統廃合せずに存続させる。
- 3小学校の統合を機に、本納地区における特色ある教育を推進する。
統合時期は、第二次実施計画期間内での統合を目指す。

○学校再編の計画に示されている内容

第二次実施計画の内容(要約) <令和4年1月策定>

【方針】

- 複式学級を有する新治小学校と本納小学校の速やかな統合（令和5年4月1日）を行い、その後、豊岡小学校との統合（令和8年4月1日以降の早期）を進める段階的な統合を行う。
- 本納小学校と豊岡小学校の統合は、児童数の推移を注視し、保護者や地域住民等と協議を重ね、理解を得ながら、令和8年3月31日までに統合時期を定める。
 - 引き続き、統合に関する協議を継続していくこととしました。
 - 令和4年度から、毎年、PTAや連合自治会の役員と話し合いを行っています。
- 使用校舎については、本納小学校を使用します。
- 豊岡小学校の児童は、統合により通学距離が遠距離となるため、スクールバスなどの導入により通学手段を確保します。

○豊岡小学校の児童数・学級数の状況

実績

統合計画が
示される

豊岡小	R2		R3		R4		R5		R6		R7		R8	
	児童数	学級数												
1 年	27	1	17	1	18	1	12	1	16	1	16	1	12	1
2 年	29	1	29	1	16	1	19	1	13	1	17	1	16	1
3 年	37	2	30	1	30	1	15	1	20	1	12	1	16	1
4 年	25	1	38	2	29	1	30	1	15	1	20	1	11	1
5 年	33	1	24	1	38	1	28	1	29	1	15	1	20	1
6 年	37	1	33	1	24	1	37	1	28	1	28	1	15	1
全校	188	7	171	7	155	6	141	6	121	6	108	6	90	6

今年度

※令和 2 ～ 8 年度：実績

本納小と新治小が統合

○これまでの話し合いと主な意見

これまでの話し合い等の開催状況（豊岡地区）

	年度	開催日	内容	参加者数
1	令和4年度	令和4年12月20日	P T A・自治会長連合会の役員との話し合い	3名
2	令和5年度	令和5年12月21日	P T A・自治会長連合会の役員との話し合い	5名
3	令和6年度	令和6年9月7日	P T Aとの意見交換会	9名
4		令和6年10月18日	自治会長との意見交換会	19名
5		令和6年12月17日	P T A・自治会長連合会の役員との話し合い	5名
6	令和7年度	令和7年9月28日	就学前児童の保護者を対象とした説明会	10名
7		令和7年12月11日	P T A・自治会長連合会の役員との話し合い	6名

○これまでの話し合いと主な意見

令和6年度までの話し合いの中で、PTAから寄せられていた主な意見

○統合校の場所に反対。

①水害がある、道路も分断される。

学校周辺の道路冠水はありますが、校舎への浸水はありません。
子供たちの安全を第一に考え、大雨警報が予想される場合には、
あらかじめ臨時休校の措置をとっています。

②ガスが出る。

低濃度の天然ガス湧出の対策として、通風孔やガス
警報器を設置しています。

③中学校と施設共有で、自由に使えない、せまい。

小学生と中学生でゾーン分けしています。
教育活動に支障はありません。

④学校にプールがない。

民間のスイミングスクールに委託しています。

○これまでの話し合いと主な意見

令和6年度までの話し合いの中で、PTAから寄せられていた主な意見

○本納小学校の教室数が足りないのではないか。

小学校と中学校で施設共用を前提としており、増築校舎には小学生が第一に入るように運用しています。
校舎全体で24教室(うち増築校舎は8教室)あり、現在は16教室(小学校8教室・中学校8教室)を使用しています。
仮に、5年後に統合するとした場合には、15教室を使用することになり、教室数は十分に足りる見込みです。

○小学校と中学校が一緒に、互いに我慢し、肩身がせまい。

学びを充実させるため、小学校と中学校を同一施設とし、小中一貫教育に取り組む学校は増えてきています。
学校現場での運用改善を図っていきます。

○これまでの話し合いと主な意見

令和6年度までの話し合いの中で、自治会長から寄せられていた主な意見

○統合する場合には、通学に係る安全対策をしてほしい。

①本納小・中の周辺の歩道整備をさらに進めてほしい。

現在、敷地北側の歩道整備を行っています。

②スクールバスの経路や通学時間などをよく検討し、子供の安全を第一に考えてほしい。

統合について地域の合意が得られた後に、保護者・地域住民を含めた「統合準備委員会」を組織して協議・検討していきます。

○PTAの意見は、統合した方がよいのか、したくないのか、どちらの意見が多いのか。

○豊岡小学校の児童数・学級数の推計から見える今後の課題

現状と見込み

⇒ 推計

平成31年4月2日～
令和2年4月1生まれ

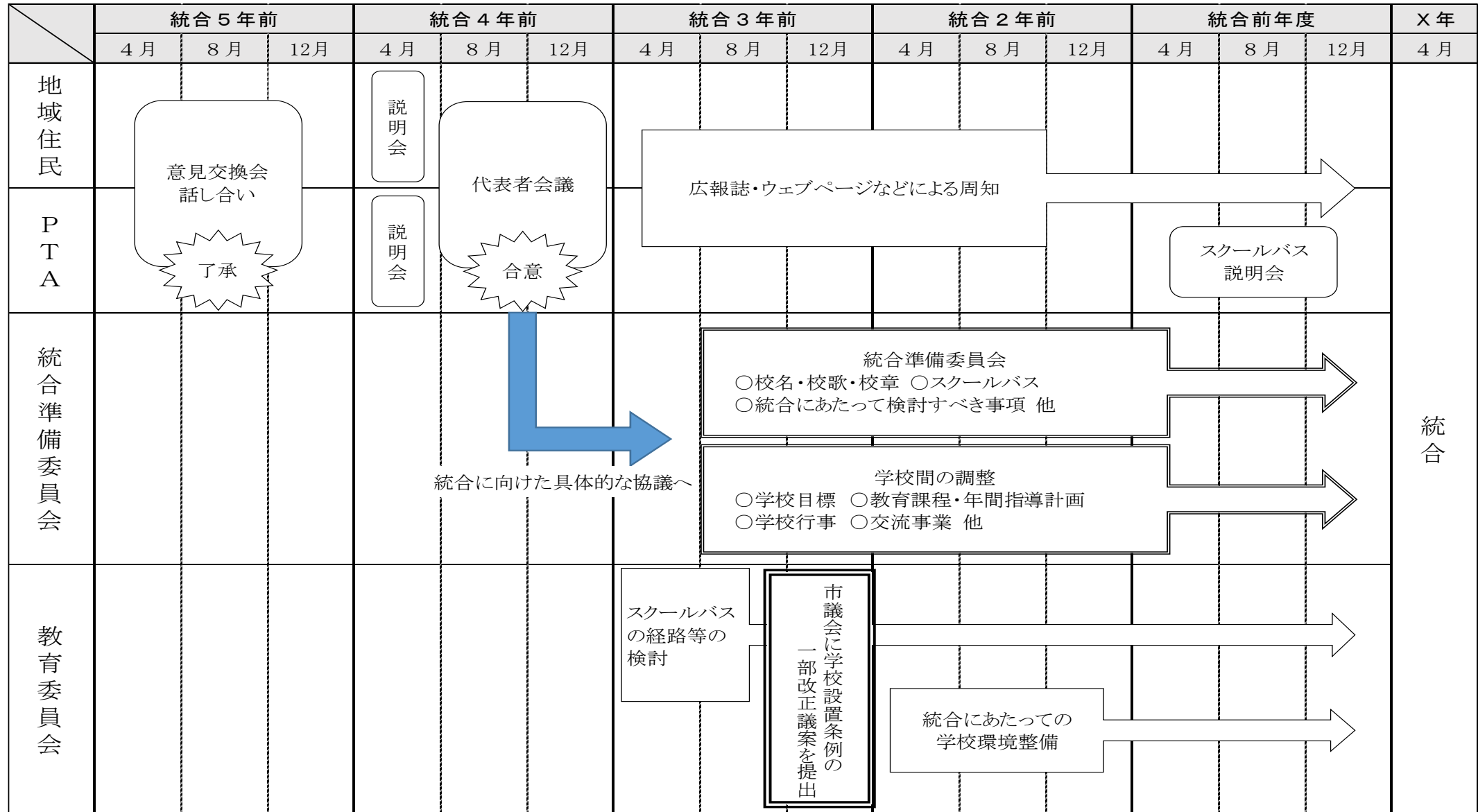
豊岡小	R8		R9		R10		R11		R12		R13		R14	
	児童数	学級数												
1年	12	1	12	1	10	1	10	1	9	1	7	1	10	1
2年	16	1	12	1	12	1	10	1	10	1	9	1	7	0.5
3年	16	1	16	1	12	1	12	1	10	1	10	1	9	0.5
4年	11	1	16	1	16	1	12	1	12	1	10	1	10	1
5年	20	1	11	1	16	1	16	1	12	1	12	1	10	1
6年	15	1	20	1	11	1	16	1	16	1	12	1	12	1
全校	90	6	87	6	77	6	76	6	69	6	60	6	58	5

※令和8年度：実績

令和9～14年度：住民基本台帳（令和8年4月1日時点）による推計

複式学級が編成される
可能性があります

○学校統合までに必要な準備期間のイメージ



※本表はイメージであり、状況に応じて内容や時期の変更が生じます。

○昨年度の説明会、話し合いで出された主な意見

昨年9月の「就学前児童の保護者を対象とした説明会」で寄せられた主な意見

- 複式学級が統合のタイミングの一つだと考える。今すぐ進める必要はない。
- 統合に賛成しており、やるなら早急に進めてほしい。
- 社会性や多様性、これからの社会で生きていく為に必要な力を身に付けて欲しいと思っているので統合に賛成。
- 児童減少のため統合するのは仕方ないと思うが、子供たちがスクールバスに家の近くから乗れるようにしてほしい。
- 統合後のスクールバス停留所の場所・時間、学童保育がどうなるのか気になる。
- 本納小は家から距離があり、災害や体調不良などの迎えに時間がかかってしまう。
- 本納小の周りの水害対策をしてからでないと、最終的なイエスがでないのでは。

昨年12月の話し合いで、PTA・自治会長から寄せられた意見

- 複式学級がどういうものかを知って新たな気付きがあり、子供の学びについて考えるきっかけになると思った。
- 統合により実際に通学する子供たちが、前もって両校が交流を行うことで、子供も本納小に対する意識が芽生え、家庭内でも前向きな会話ができるのではないかと思う。
- 合意から統合までの準備期間に相当の期間を要することがわかった。
- 両校の統合は令和4年から始めていて、まだ決まっておらず、とても時間がかかっている。子供たちがどんどん少なくなる状況では、早めに統合した方がよいと思う。

昨年12月の話し合いの結果

子供たちの学びの充実のため、本納小学校と豊岡小学校の統合の話し合いを継続していく共通認識が持たれました。

○令和8年度は、さらに範囲を広げて話をしていく。

→P T Aの集まりを捉えての説明

→単位自治会（16自治会）ごとの説明
など

理解が深まり
了承が得られたら

代表者会議へ

両校の保護者・地域住民の
代表による統合の意思決定
をする会議

○現代の学校教育に求められること

これまでの社会

マニュアルに基づいて、良い品質の製品を、
大量生産・大量販売する など



子供たちが社会の担い手となる将来

異なる部門から1人ずつ集めてプロジェクトチームを
つくり、新しい製品を開発する など



学校教育が大きく変わってきている

文部科学省から

H30：「主体的・対話的で深い学び」
R3：「令和の日本型学校教育」

知識や技能の習得のみを目標とするのではなく、他者とコミュニケーションを図りながら新たな知識を創りだしたり、新たな問題を解決したりする資質や能力を育むことも重要となっている。

一斉指導を中心に実施
されてきた学校教育



様々な学習形態の中で多様なものの見方・考え方に
触れることができるような「**協働的な学び**」

○現代の学校教育に求められること

今の学校では、例えば

千葉県の県庁所在地はどこですか？
地図帳を使って調べましょう。

習得

なぜ、千葉市が千葉県の県庁所在地になったと思いますか？

活用

あなたが政府だったら、千葉県のどこを県庁所在地にしますか？

探究

探究学習では、

「問い」をたて、情報を収集し、グループや学級全体で意見を出し合い、
多様な考えに触れ、納得できる「答え」を導き出し、他者に伝えていく。

○現代の学校教育に求められること

「協働的な学び」での授業の流れ（例）

学習課題

「問い」「めあて」

自分の考え

自分なりの考えをまとめる

グループ

級友の考え、グループの意見

発表

説明、他のグループの考え

クラスでまとめ・相互評価

他の考えと比較、より高次の考えに

学習のまとめ・振り返り

どのように学習したかを確認し、学び方を身に付ける

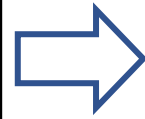
「協働的な学び」が
全ての教科で日常的
に行われている

他者の考えから、自分の考えを再度
構築して、学びを深めていく

単に伝え合うだけではなく、
「納得できる答え」にまとめあげる

現代の学校教育に求められること

以前の学校教育では、
知識や技能の習得のみを
重視する傾向が強かった。



現代では、
他者とコミュニケーションを図りながら
新たな知識を創りだしたり、新たな問題を
解決したりする資質や能力を育むことが必要。

知識・技能

思考力・判断力・表現力

学びに向かう力・人間性

一斉授業
少人数指導

グループ学習
探究学習・体験学習

「学びの充実が図れる学校規模」
が求められる。

○学校教育における人数規模について

学級の児童生徒数が少ないと・・・

入学から一緒に、クラス替えがなく、接する機会が多い。

- ・ 教員の目がゆきとどき、個別の配慮がしやすい。
- ・ 温かい雰囲気が醸成され、親密な友人関係を構築しやすい。

一方で

- 社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
- 人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- 多様なものの見方・考え方に触れることが難しい。
- 様々な学習形態をとれないことがある。
- 集団学習の実施に制約が生じる。

入学時から一緒だから気を遣わなくていい

嫌われるかもしれないから、反対をしないようにしよう

頑張っても、△△さんにはかなわない

練習しなくても自分が一番だ

算数が得意な○○さんの意見でOKだ

○学校教育における人数規模について

学級の児童生徒数が少ないと・・・

授業以外の場面でも

○教員の目が行き届く、反面、教員への依存心が強くなりすぎる。

指示されるまでは何もしないで待っている

○学級の係活動や児童会の委員会活動などが十分にできず、自治・自律の意識が醸成されにくい。

人数が少ないから、みんなで一緒にやるし、先生が指示してくれる

○小学校中学年頃から仲間意識が強まり、友人から影響を受けやすくなる。個性が伸長し、多様化するようになってくる時期に、気の合う友達がいらない。

AさんとBさんは、仲がいいので、中に入りづらい

わからないのに、助けてくれない

○進学等で、人数の多い環境になじめないことがある。
(不安をかかえやすい)

友だちができない

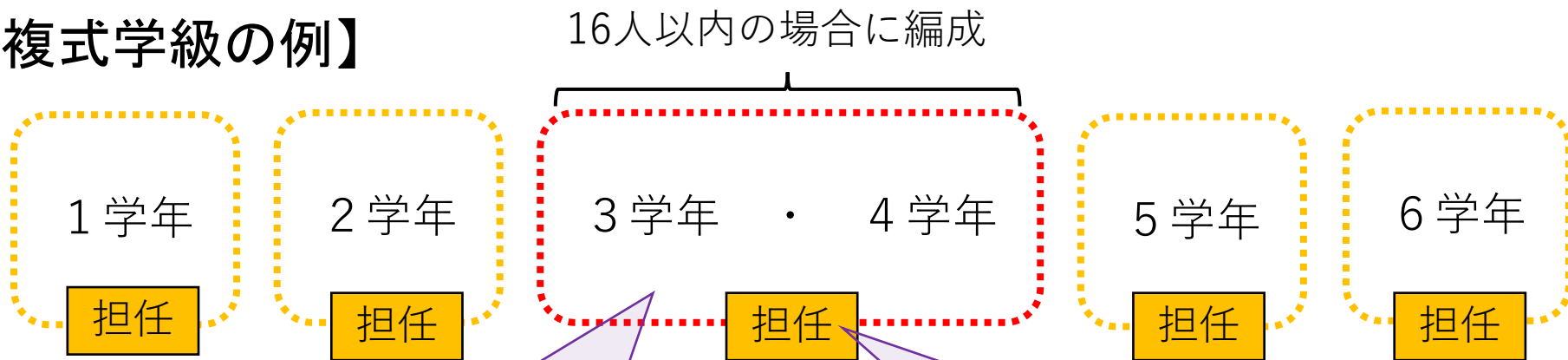
○学校教育における人数規模について

学級の児童生徒数がさらに少ないと・・・＜複式学級とは＞

異なる学年で1つの学級を編成し、担任1人で2つの学年を指導するもの。

引き続く学年が16人以内の場合に編成されます。（1－2年生の場合は8人以内で編成）

【複式学級の例】



授業では、教員が一方の学年を指導している間、他の学年は自学自習となる

教員は、特別な指導技術が求められる

○学校教育における人数規模について

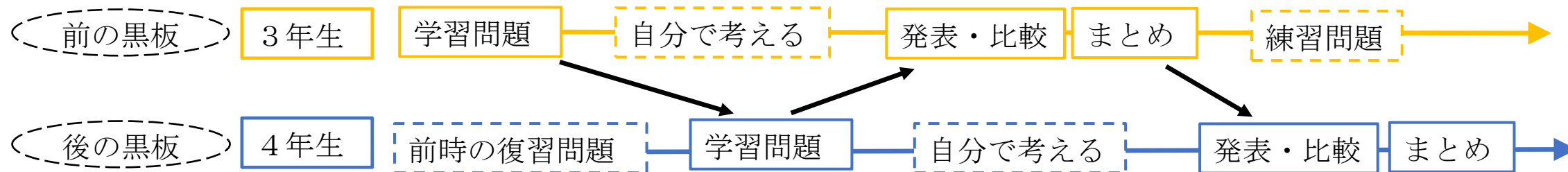
複式学級の課題

☆複式学級では、1人の教員が2つの学年を同時に指導するため、課題が大きい。

例えば

特別な指導技術
が求められる

1人の先生で、
3年生には「時こくと時間」で、10時20分から50分後の時刻を考える学習を
4年生には「小数のたし算」で、 $0.3 + 0.25$ の計算を考える学習を一緒に指導する。



3年生が、問題を解くように、自分で考えている時に、
先生は4年生を指導している。
そのため、3年生は、必要な支援をしてもらえない。

保護者・地域住民・行政の協働によって
子供たちの充実した学びを展開できる教育環境を
考えていきましょう。

茂原市教育委員会教育総務課のウェブページで、
これまでの話し合いや意見交換会の開催状況等を
確認することができます。



お問い合わせ
茂原市教育委員会 教育総務課
電話:0475-20-1557
FAX:0475-20-1607